

この気持ちは。

(株)松田組 戸倉 大貴

「キレイにできましたね」と、通りすがりの女性に声を掛けられたのは、工事完成間際に歩道から建物を眺めていた時でした。

私は「ありがとうございます」とお礼を伝え、女性は去っていきました。そのとき私は、褒めてもらえた嬉しさと同時に、照れくさいような、恥ずかしいような、不思議な気持ちになったことを、今でも鮮明に覚えています。

そのような体験をしたのは、今から約8年前、現在の建設会社に入社して、すぐに配属された工事でした。

その工事は、鉄筋コンクリート造・5階建て、共同住宅の新築工事で、配属当初の状況は基礎工事中、掘削が完了したところで、ほとんど始まりに近い状況でした。

その工事現場では、初めて目にするものばかりだったので、鉄筋スゲー、大工さんカッコイイ、図面の通りにコンクリートができた、1フロア上がった等々、挙げだしたらキリがないほど感動することばかりでした。実際に目の前で形ができていくのを見るのは、とても楽しいことです。

そうこうしている間に月日は流れ、竣工し工事は完了していったわけですが、「なぜ、冒険のような気持ちになったのか」を改めて考えるときが来ます。

それは、最初の工事が竣工してから4～5年後、私も年月が経つにつれて、小学校の新築や、福祉施設の改修等を経験していきました。さまざまな失敗をしましたが、やはり変わらないのは、「実際に目の前で形ができていくのは楽しい」という気持ちと、周りの方に褒められたり、感謝されると「あの不思議な気持ち」になるのも変わりませんでした。今もです。

そんなある日、たまたま最初に工事をした建物の近くを車で通ることがありました。何気なくナビを見ると、その建物の名前が載っていました。嬉しかったです。そしてまた「あの気持ち」になりました。会社へ帰り考えてみました。

そこから思い出したのは小学校のころ、自分の作品をみんなの前で発表する場面で

した。その時も「照れくさいような、恥ずかしいような」あの気持になっていたことを思い出したのです。

つまり、スケールは違いますが、大人になり仕事として自分の携わった建物が世の中に発表されていくということです。

私の場合、施工管理という立場で全体を調整し完成へ運んでいくのが仕事ですが、そう思うことができます。その他にもさまざまな職種の方が工事には携わっていますが、みなさん、自分の仕事が世の中に発表されていくというのは同じです。

私とは違うかもしれませんが、ベテランの方も、「忘れられない気持ちや想い、出来事」があると思います。振り返ってみてはいかがでしょうか。

また、これから建設業界の新たな力になってくれる方は、楽しい日もつらい日も乗り越え、担当した1つの仕事が完成したとき、どういう気持ちになるのでしょうか。

私はこの先も、絶対に忘れることはないでしょう。

最初の最後に感じた「この気持ちは。」